

自立支援を基軸に
地域の人たちと地域の課題を
議論する仕組みをつくる
～個別課題解決から政策提言までの道すじ～



燕市分水地区地域包括支援センター
主任介護支援専門員 佐藤 正枝

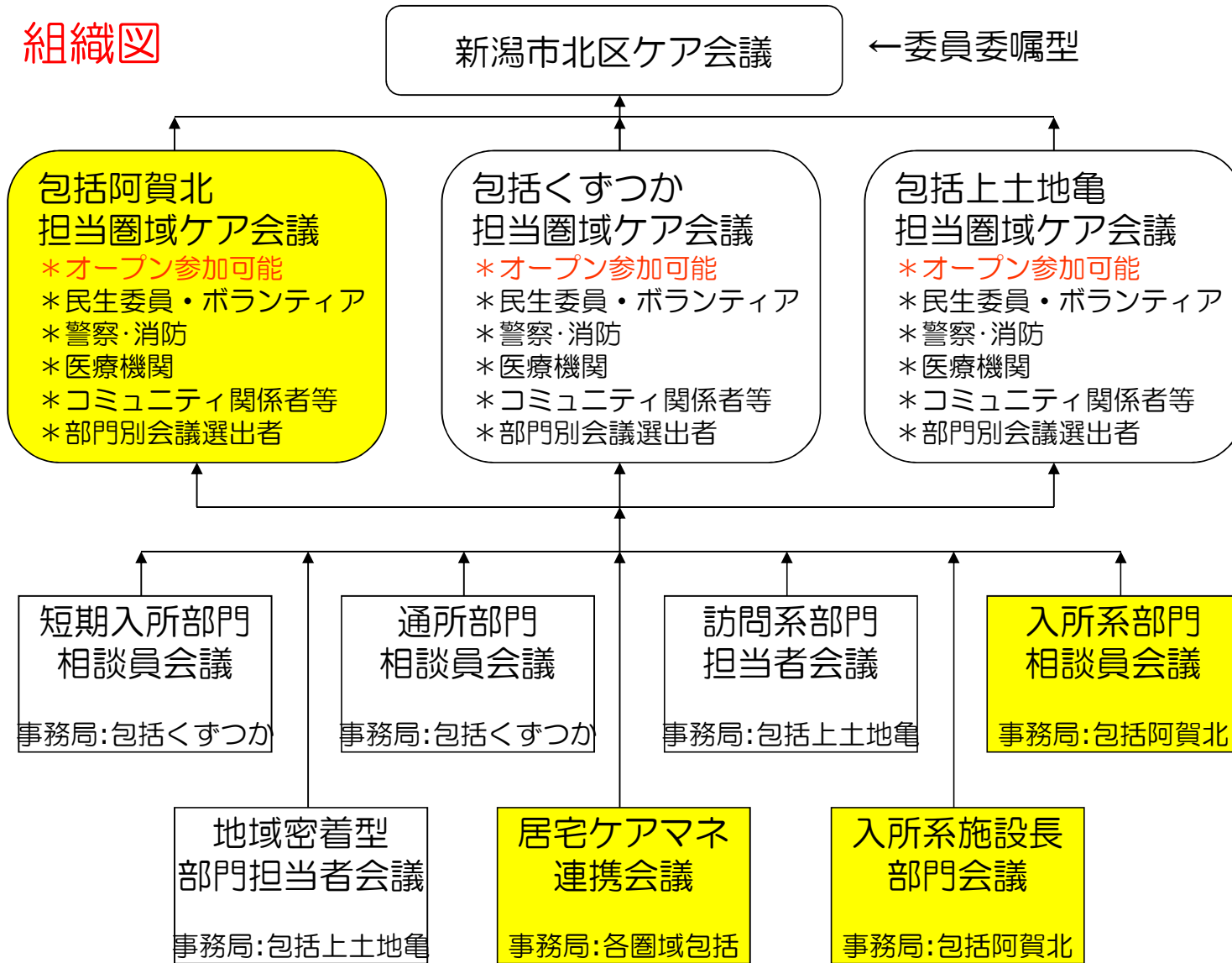
自己紹介 新潟市包括阿賀北での実践を経て

詳細は、『地域
ケア会議運営
マニュアル 第
三章』および
『介護保険情報
2014年4月
号』参照

- (1) 業種別会議を開催し、実務レベルの課題を、二種類のワークシートを用いて参加者が持ち寄り、同業者の意見交換を主体に解決を目指す
- (2) 業種別の会議で解決できないケースや課題、他の部門の意見を聴きたいケースや課題について、担当圏域包括ケア会議に、ワークシートを持ち上げ、協議。他業種、住民の視点から解決策を探る。
 - ⇒ 北区圏域会議に持ち上げ協議し、解決を図る
 - ⇒ 各事業所の事業拡大等で解決を図る
 - ⇒ 住民によるコミュニティ活動等で解決を図る

* 参加者みんなで(地域の人たちと)、課題を共有(知る)、協議しながら課題を整理(考える)、どこが解決をしやすいか振るい分ける(判断する)

組織図



燕市地域包括について(全委託)

- 平成18年3月 1市2町(旧燕市・旧吉田町・旧分水町)が合併

	包括さわたり	包括おおまがり	吉田包括	分水包括	全市合計
人口	23,557	19,781	24,522	14,504	82,364
高齢者人口	6,425	5,218	6,406	4,113	22,162
高齢者人口割合	27.3%	26.4%	26.1%	28.4%	26.9%
世帯数	8,418	6,693	8,488	4,670	28,269
平均世帯人員	2.80	2.96	2.89	3.11	2.91
包括の職員数	5(+1)	5(+1)	5	5	22
運営法人	(福)つばめ福祉会	(福)つばめ福祉会	(福)吉田福祉会	(福)桜井の里福祉会	3法人4包括

分水地区の紹介



目指しているところ

- 住み慣れた分水で、たとえ生きづらさを抱えるような状態になっても、快適に生活し続けていくために、必要な取り組みについて、地域のみなさんと
 - ① どうしたらよいか **話し合う**
 - ② 話し合われた「地域の課題」を、各組織に **持ち帰る**
 - ③ 各組織・団体で取り組めないか **考える** ⇒ **実行(取り組む)**
 - ④ 自分たちの手に負えないことは燕市に **持ち上げる**

**こんな機能を持たせた分水地区地域ケア会議を
地域の人たちと一緒に創っていきたい！**

地域ケア会議の構築例(日常生活圏域と市町村の範囲が異なる場合)から

目的：市町村を超えた地域課題の把握および対応など
機能：②④⑤など

市町村を超えたレベル
 地域ケア会議

地域ケア推進会議 ⇒ 燕市地域ケア推進会議(仮)

目的：市町村における課題の把握および対応など
機能：②③④⑤など

市町村レベル
 地域ケア会議

圏域ケア会議 ⇒ 分水地区地域ケア会議

日常生活圏域レベル
 地域ケア会議

目的：日常生活圏域における課題の把握および対応など
機能：②③④など

個別レベル
 地域ケア会議

地域ケア個別会議 ⇒ 事例検討会

目的：個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の把握など
機能：①②③など

- 地域ケア会議の機能**
- ①個別課題解決機能
 - ②ネットワーク構築機能
 - ③地域課題発見機能
 - ④地域づくり資源開発機能
 - ⑤政策形成機能

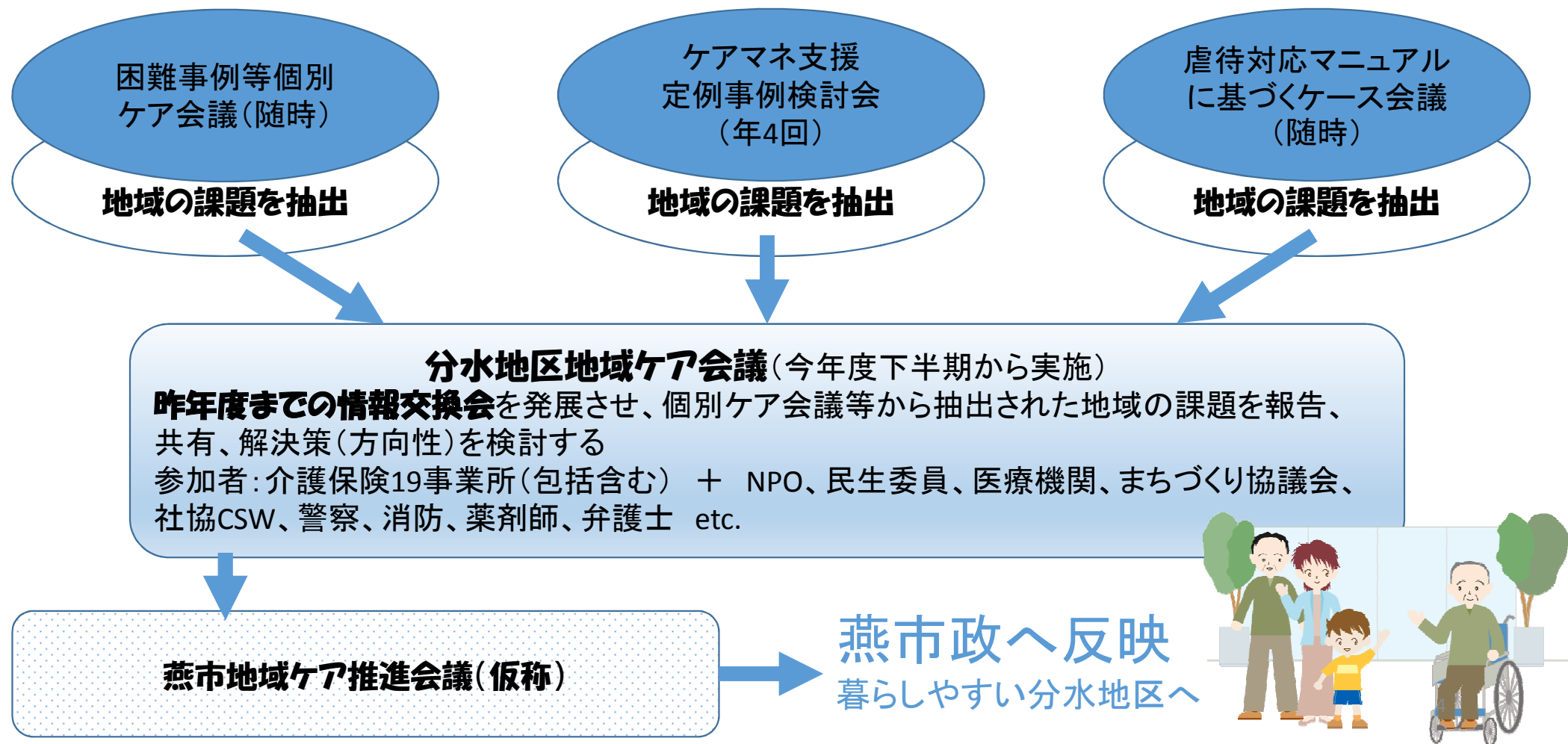
振り出しは、個別の生活課題！

- ケアマネジャーが触れる利用者の課題
- サービス事業所が触れる利用者の課題
- NPOや民生委員の方々が触れる、地域で生きづらさを抱えている人々の課題

手順としては、

- ①これらの課題を個別の**事例検討会**で話し合い、
個別課題の解決を目指しつつ、地域の課題を抽出する
- ②抽出した地域の課題について、**分水地区地域ケア会議**で報告し、
参加者の皆さんと共有し、**話し合う、持ち帰る、考える、持ち上げる**
- ③**燕市地域ケア推進会議(仮)**を経て、燕市の政策に反映させる
- ④燕市の地域包括ケアシステム構築され、充実される
⇒ 市民の生活課題が解消に向けられる

分水地区地域ケア会議 イメージ図



定例事例検討会について

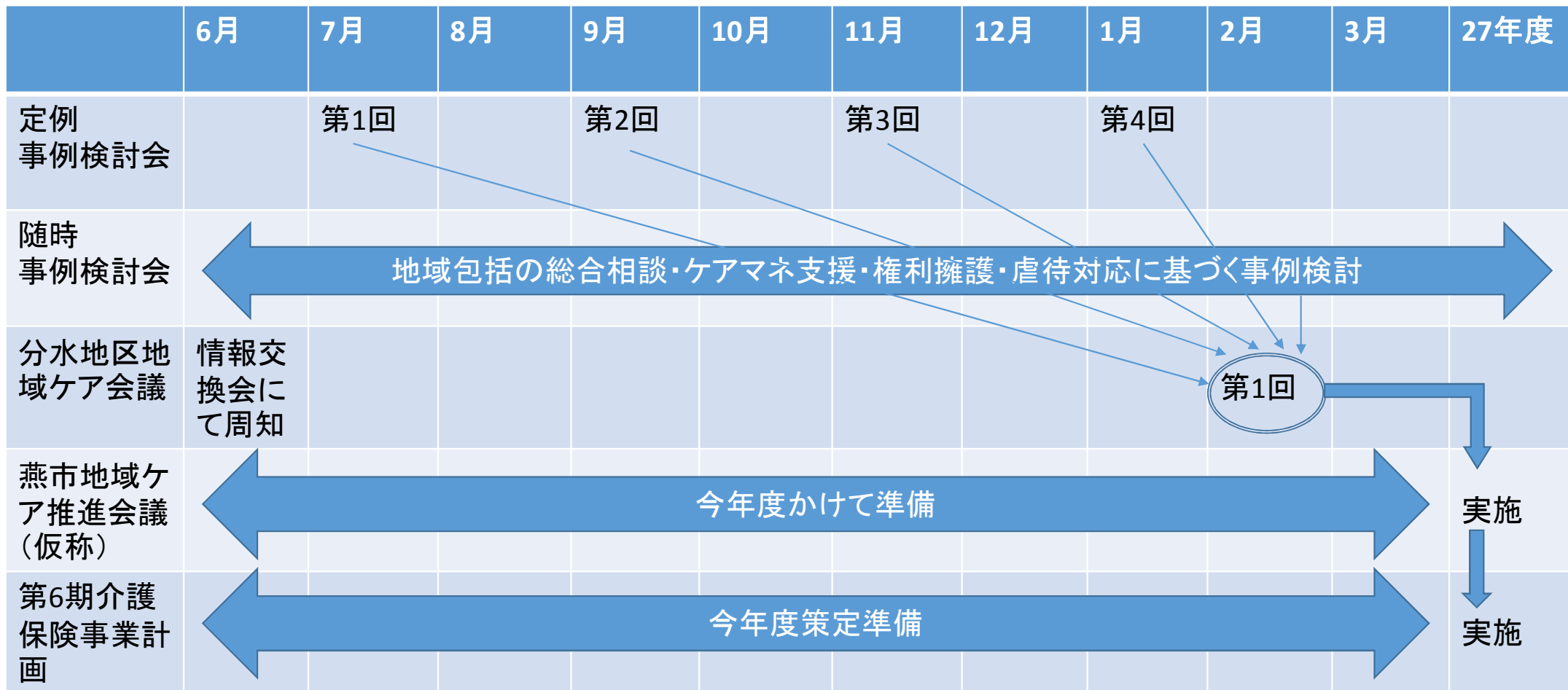
- 「あったらいいな」シートの活用
- 振り出しはケアマネジャー ⇒ ケアマネジャーが事例を発題
- 参加者はケアマネジャーに限定せず、サービス事業所も参加
- 当該ケースにかかわる事業所(NPO含むケアチーム)は原則出席
- 当該ケースのケアチームメンバー以外のケアマネジャー、サービス事業所については、個人情報保護の誓約書を記入した上で参加
- 当該ケースの個別課題を、定例事例検討会にて一般化し、一般化した課題を「分水地区地域ケア会議」へ報告・協議し、地域の課題として共有、課題解決の方向性を導き出す流れとする

サービス事業所からの発題

呼びかけてはみたものの現段階では反応なしでも、あきらめない

- 随時受付 ⇒ 随時事例検討する
- 「あったらいいな」シートの活用・提出にはこだわらない
- 自事業所で満たせない利用者の生活課題に直面したとき、地域包括までご一報ください
- 包括内で共有し、速やかに関係者を招集、事例検討会を開催する
- 個別課題の解消を目指すとともに、地域の課題を抽出する
- 分水地区地域ケア会議に抽出した地域の課題を報告・協議、課題解決の方向性を導き出す流れとする

タイムスケジュール



年度初めの情報交換会で構想を共有



定例事例検討会の様子



分水地区地域ケア会議の議題について

—これまでの個別事例から抽出した地域の課題—

第1～4回定例事例検討会から

- ・認知症の方に可能な限り個別対応ができる通所先
- ・認知症の方が行方不明になるのを防ぐことができるまちづくりの必要性
- ・地域デビューのきっかけづくり

随時開催の個別地域ケア会議から

H27.2月 分水地区
地域ケア会議へ

若年性認知症支援

虐待対応 個別ケース会議から

- ・住民参加の見守りネットワークの必要性

ふりかえり事例検討会から

- ・位置検索システムの改変要請と専門職への周知
- ・住民参加の見守りネットワークの必要性

分水地区地域ケア会議への準備

- 参加協力者への根回し
- 自分たちでどこまででき、だれにどこから支援をもらうか、企画案の作成
 - 1 下記、平成25年度地域ケア会議実務者研修資料の活用
 - 2 日本社会福祉士会ネットワーク研修企画シート活用

包括内・関係者間にて
すりあわせ

①地域の共通課題	②根拠データ	③解決策	④センターの 限界(○△×)	⑤連携先	市町村への 報告・提言

燕市地域ケア推進会議(仮称)を創る

【燕市担当としての課題】

- 4包括の足並み...それぞれの手法で地域課題を浮き彫りにする、地域性を考慮した業務の標準化をいかに図るか
- 燕市として各地区における地域ケア会議を包含し、市全域の地域ケア会議をどうデザインしていくか...ビジョンの共有
- 縦割りを排した体制づくり
- 第6期・第7期介護保険計画への反映

**トップダウンでもなく、ボトムアップでもなく、
委託包括との関係性は協力して物事を成し遂げる 二人三脚
目標は、「みんながみんなにやさしいまちづくり」の実現**

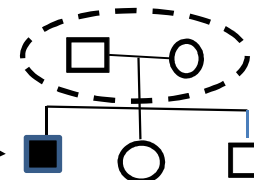
燕市介護保険計画に立ち返り

記載例(架空事例)

「あったらいいな」シート(ケース紹介様式)

提出日：平成26年6月6日

提出者：分水包括 佐藤正枝

<p>氏名：イニシャルで M.M 様</p> <p style="text-align: center;">男・女</p>	<p>生年月日：M・T・S 13年8月3日(75歳)</p>
<p>住所：集落名まで可 横田</p>	<p>家族構成</p>  <p>新潟市西区 東京在住</p>
<p>状態像： 要支援1・2・要介護1・2・3・4・5 日常生活自立度 身体(J1) 認知症(Ⅲ)</p> <p>杖なしで歩行可能 健脚 家人に黙って外出 岩室で警察に保護されたこともある 外出は昼夜問わずあり、本人なりの目的は 不明 妻がそばにいないと不安になり、探し に出かけるのか？ 疾患名：アルツハイマー型認知症</p>	<p>子どもたちは独身。就労あり。 介護協力は難しい。</p>
<p>現在利用しているサービスとそこでの状況</p> <p>火・金 デイを利用している</p> <p>デイでは話の合う方がいない様子で、ポツンとして何を するともなしにすごしているが、デイに行くことは嫌がら ずに出かけている。</p>	<p>利用上満たせないニーズ (本人・家族の思い)</p> <p>妻が少しでもそばにいないと不安に なり、探しに行こうとするのか外出し、警察 に届け出ることが3回ある。家で好きなよう にすごさせたいが、妻にも妻の用事がある。 デイでは楽しそうにしていらないが、行って くれるだけありがたい。これ以上回数を増や すことは本人が気の毒なのでやめておきた い。行方不明になって警察のお世話になっ たり事故になる前に帰ってきてほしい。</p>
<p>どんなふうに代替案を提示しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループホームの通所の方が本人に合うと思い勧 めているが、「慣れたところがよい」と妻が応じてもらえ ない。 ●行方不明になった際のために、GPSの利用を勧めて いるが、検索が有料になるため家人が利用を躊躇して いる。 ●徘徊センサーも提案はしたが、利用を好まない。 	<p>あったらいいなサービス</p> <p>ご近所に、本人を見かけたら声をかけ、家 に連れてきてくれる人が複数いてくれるとあ りがたい。ご近所に協力いただき、見守り ネットなどの仕組みがあったらいい。</p>
<p>備考—書き足りないこと—</p> <p>介護者である妻は勉強熱心な方で、認知症カフェにも本人を連れて足を運ばれている。本人をカギ をかけて閉じ込めたり、本人の行動を抑制したくないという思いがある。</p>	